



「あわてんぼう」ということの見方を変えてみると

校長 神田 敏之

人権週間に合わせて朝会で「どの人も認める」という話をしました。短所も含めてその人を認めるということです。それがどの人の人権も尊重することにつながるからです。それに関連して見方を変える（リフレーミングと言います）の話をしました。

まずは、どの人にも長所があるのでそちらをたくさん見るようにするということを伝えました。各学級での取組の中には、互いのよさを紹介し合ったり手紙を書いたりしているものもあります。全校では、ありがとうカードの取組もしています。リーダー・イン・ミーで信頼貯金をためている人も上手に長所を認めているのだと思います。このように長所をたくさん見つけていくと短所が気にならなくなってきます。

次に「見方を変える」という話をしました。「あわてんぼう」な人「うるさい」人「おとなしい」人と聞くと短所に思えてしまうかもしれません。でも見方を変えるとどのようになるでしょうか。

- ・「あわてんぼう」というのは、すぐに行動できるので「行動的」と言えます。
- ・「うるさい」というのは「元気がよい」と言えます。
- ・「おとなしい」というのは「聞き上手」と言えます。

このように、自分のことや周りの人のことを見るときに、長所を見る見方で見るように伝えました。自分で短所と思っていることも見方を変えると長所に思えてきます。ぜひ、ご家庭でも話題にして、家庭の中で「見方を変える」ということが日常的にできるようにしてみてください。

見方を変えるということは、短所を見るときに限りません。私が一年生の担任をしていた時のことです。その子どもは家に帰った時に「今日、鬼ごっこで押された。」と言ったそうです。それを聞いた保護者の方が「勢いがついちゃったのかもしれないね。それぐらい一生懸命にやっていたんだね。」と話してくれたそうです。その話を聞いて、子どもの話をうのみにせず、子どもの見方を広げてくれた保護者の考えに共感しました。

人権を大切にすることとは、誰もが安心して過ごせるということです。知らずに人を傷つけてしまった時には心から謝罪する、いじめなど人を傷つける場面を見かけた時には、おかしいと思うことに対して「やめようよ」と声を出す、普段の生活からあいさつや気持ちのよい言葉かけをすることなどいろいろな側面から子どもたちの意識を高めています。自他を大切にすることの育成へのご協力を今後ともよろしくお願いいたします。

子どもたちの人権やいのちを守るために

虐待や虐待の疑いがあると学校が判断したときには、学校は関係機関に報告（通告）することが法で定められています。ご理解のほどよろしくお願いいたします。